ボロルトのじいさんと帝釈天　モンゴル

昔むかしのある良き時代。ボロルトの山に、じいさんとばあさんが住んでいました。ふたりは、二頭の馬を飼っていました。鳥のように速い馬と、よろよろのおいぼれ馬でした。

あるとき、じいさんは、鳥のように速い馬に乗って、羊のところへでかけていきました。すると、いっぴきの羊が、子羊を生んでいました。小さなかわいい角のある真っ白な子羊でした。じいさんは、おおよろこびでうちに帰ると、ばあさんに、

「おい、かわいい子羊が生まれたぞ。毛布に包んで連れてこよう」といいました。そして、毛布を持って、羊のところに引き返しました。

もどってみると、ハイタカが、子羊の目をくりぬいて食べてしまっていました。じいさんは、かんかんに怒って、鳥のように速い馬でハイタカを追いかけました。そして、ハイタカをつかまえると、硬いくちばしをもぎ取って、かわりにやわらかいくちばしをつけました。

ハイタカは、帝釈天のところへ飛んで行って、うったえました。

「ボロルトのじいが、わたしの硬いくちばしをもぎ取って、やわらかいくちばしをくっつけました。帝釈天さま、ごらんください」

それを見ると、帝釈天は、おおかみを呼んで、

「ボロルトのじいの、鳥のように速い馬を食べてこい」といいつけました。

おおかみは出かけて行きましたが、まちがえて、よろよろのおいぼれ馬を食べてしまいました。じいさんは、かんかんに怒って、鳥のように速い馬でおおかみを追いかけました。そして、おおかみをつかまえると、おおかみのおしりの皮をはいで胸にくっつけ、胸の皮をはいでおしりにくっつけました。

おおかみは、帝釈天のところへ行って、

「ボロルトのじいが、わたしのおしりの皮を胸に、胸の皮をおしりにくっつけました」とうったえました。

そこで、帝釈天は、九人のお化けを呼んで、

「ボロルトのじいをつかまえてこい」といいました。

九人のお化けは、出かけて行って、じいさんの家をのぞきこみました。じいさんは、

よろよろのおいぼれ馬のふんを煮(に)たてて待っていました。そして、いきなり、お化けたちに熱い馬のふんをまき散らしました。九人のお化けは、顔をやけどして逃げだしました。そして、帝釈天のところへ行って、

「ボロルトのじいが、わたしたちの顔をやけどさせました」とうったえました。

帝釈天は、竜(りゅう)を呼んで、

「ボロルトのじいに、雷(かみなり)を落としてこい」といいつけました。

じいさんは、ボロルトの山のてっぺんに馬のくらをひとつ置いておきました。竜は、山ごとそのくらに雷をドドンと落としました。じいさんは、鳥のように速い馬に乗って竜を追いかけ、つかまえると、竜の口を黄金(おうごん)の綱(つな)でくくり、しっぽをぎりぎりと引き結んで追い返しました。竜は帝釈天のところへ行って、

「ボロルトのじいが、わたしをとらえて、わたしの口を黄金の綱でしばり、しっぽをぎりぎりと引き結んだのです」とうったえました。

帝釈天は、こんどは、ひとりの人間をつかわすことにしました。

「ボロルトのじいに、わしのところに参(まい)れといえ」

人間がじいさんの家に行って、

「帝釈天さまが、来いと呼んでおられるぞ」といいました。そこで、じいさんは出かけて行きました。

帝釈天は、

「おまえはどうして、ハイタカの硬いくちばしをもぎ取って、やわらかいくちばしをつけたのだ」とたずねました。じいさんは、

「わたしの羊がかわいい小さな角のある子羊を生みました。わたしはうれしくて家に帰り、ばあさんにも話をして、子羊を包んでやろうと毛布を持ってもどりました。すると、ハイタカのやつが、わたしの子羊の目をくりぬいて食べてしまっていたのです。それで、わたしは、硬いくちばしをもぎ取ってやりました」と答えました。帝釈天は、

「なるほど、わかった。もっともな話だ。ところで、おまえは、なぜおおかみの皮をはいだのか」といいました。

「帝釈天さまは、おおかみに、よろよろのおいぼれ馬を食べろとおっしゃったのですか。それとも、鳥のように速い馬を食べろとおっしゃいましたか」

「なるほど、わかった。もっともな話だ。では聞くが、おまえは、なぜ九人のお化けの

顔をやけどさせたのか」

「帝釈天さまは、お化けたちに、ボロルトのじいの家をのぞけとおっしゃったのですか。それとも、じいをつかまえてこいとおっしゃいましたか」

帝釈天は、

「なるほど、いちいちもっともな話だ。ところで、おまえは、なぜ竜の口をくくり、しっぽを引き結んだのか」といいました。

「帝釈天さまは、山に雷を落とせとおっしゃったのですか。それとも、じいに雷を落とせとおっしゃいましたか」と、じいさんがいうと、帝釈天は、

「よし、おまえのいうことはもっともだ」といいました。

じいさんのいいぶんがとおって、めでたし、めでたし。

村上郁再話

資料『モンゴルの昔話』児玉信久・荒木伸一・橋本勝編訳／三弥井書店